

我孫子市史研究センター・会報281号 (通算587号)

発行・編集 我孫子市史研究センター

発行日 令和7年10月30日

「市史研結成50周年記念講演会」盛況の内終わる

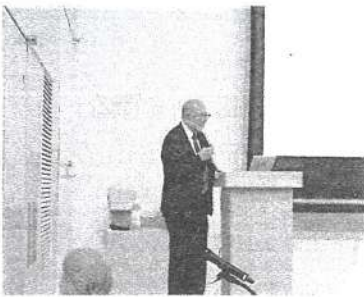
「幕末・維新时期における村々の動向―根戸村の史料を中心に―」

講師：久留島浩氏（国立歴史民俗博物館前館長・名誉教授）

日時：令和7年10月13日（月・祝）14時開場 会場：アビスタ・ホール

市史研の活動にエールをいただく

清水 千賀子



10月13日（祝）市史研結成50周年および市制施行55周年記念講演会として、国立歴史民俗博物館前館長で同館名誉教授の久留島浩先生による「幕末・維新时期における村々の動向―根戸村の史料を中心に―」の講演がアビスタ・ホールで行われた。

はじめに久留島先生から、1975年「我孫子市史編纂事業基本計画」の理念に基づき「市史研究センター」が発足した当時の思いや、その後50年の市史研の活動についても『我孫子市史研究』『四〇周年記念誌』『我孫子史研究』などを実に丁寧に読んでいただき、我々の活動スローガン「市民で創ろう我孫子の歴史」や「地域に関する資料等を直接に駆使しながら個々または共同で研究する」姿勢が、現在もなお続いていることへの高い評価をいただいた。会も50年という経過のなかで構成メンバーも変化し、これまで導いて下さった諸先輩たちもいなくなりつつあるなか、今後どの様に進むか模索している最中であったため、これからの活動にとっても力強い励みとなった。

さて本題の講演は、幕末・維新时期の幕領根戸村および相給村の我孫子村と柴崎村を中心に、全国の幕領と代官支配の在り方、幕領根戸村における村入用の費目や村の財産運用、村寄合などからみえる村運営の姿から村の行財政処理能力を、また相給村の分郷の有様や旗本領主と村との関係、相給の村としてのまとまりの仕方などを、さらに在地に存在する様々な組合や文政10年に幕府によって設置された改革組合村（大組合、小組合）を村々が運営する仕組みなど、用意された沢山の資料を基に説明がなされた。資料が多く説明の箇所を探すのに右往左往することもあったが、これらの資料は帰宅後じっくり読み直すことで、新たな示唆も得ることができた。

結論は、幕末期のこれら在地村々にはすでに行政処理能力が成熟していたこと、それに幕領の代官支配にみられた官僚化、マニュアル化と文書行政の仕組みを利用して、明治以降、幕府の改革組合村の行政的まとまりが、新政府の大区小区制などの基盤となったと云うことであった。久留島先生によると根戸「川村一夫家文書」には明治期により面白い資料が多くあるとのこと。その他にも我孫子にはまだまだ面白い古文書が沢山ある。これからも市民の手で我孫子の歴史を一緒に創って行きましょう！



講演終了後、恒例の講師を囲んでの懇談会が開催された。